

## 2015年3月期第2四半期決算 決算説明会Q&A要旨

日本水産株式会社  
経営企画IR室  
広報IR課

- Q. 2000年以降中計の未達が続いてきたが、新中計では目標の設定はどのように考えているのか。また、現在はROEや配当性向など株主に向けた経営指標の公開がなされていないが、新中計ではこれらの経営指標をどう盛り込む予定なのか教えていただきたい。
- A. これまでの中計は目標設定が高すぎて未達となるが多かったが、次の中計では到達可能な計画でありながら着実に成長していけるような目標設定にしていきたい。また、目標とすべき指標については現在審議中であり、新中計の発表までもう少しお時間をいただきたい。
- Q. アメリカのゴートンズやK&Pの業績が良いが、北米のマーケットでどうい  
う変化が起こっているのか（需給が良くなってきているのか、レストラン  
マーケットが良くなってきているのかなど）について教えていただきたい。  
特にK&Pは来年も好調が続くのか。
- A. アメリカ全体の景気は上向きと見ている。えび、鮭鱒は世界的に値段が上がったが、アメリカは高値でも需要が旺盛な状況にある。当社グループの北米事業は、リテールのゴートンズ、業務用のK&P、バルクのF.W.Bryceであり、景気が良くなると、リテールは下がり、レストランは上がるが、その通りになっている。K&Pは、大手レストランチェーンと一体となって商品開発を行ったのが成功している。ゴートンズは市場全体の規模が縮小するなか、高粗利商品への注力がうまくいっている。F.W.Bryceは好景気に支えられて順調である。K&Pの来年の成功の鍵は、共同開発を他のレストランチェーンに拡大していけるか否かにかかっている。
- Q. 今期の業績予想について、バッファも含めリスクをどういう風に見ている  
のかなどセグメント別の数字の考え方について教えていただきたい。
- A. 上期は計画を上回る業績であり、修正計画につきバッファが全くないとい  
うこともないが、下期では次のようなリスクを見込んでいる。水産事業で  
は影響の大きい鮭鱒の価格動向、食品事業では大きく変動している為替・  
販売及び原材料の両面で影響のあるすりみ価格、ファインケミカル事業で

はジェネリックの影響拡大による販売数量の減少などのリスクを見ている。

Q. ファイン事業について、収益悪化のスピードの速さはなんとかしないといけないと思うが、来期以降の打ち手を教えていただきたい。また、下期の減益含め止血がすぐにできるのか教えていただきたい。

A. 後発品の拡大傾向が今すぐ変わるとは言えないが、EPA 自体の全体のボリュームはまだ増えている。ニッスイのコスト競争力を強化するとともに、長期的にはグローバルに展開していきたい。また、機能性原料のグローバル販売や原料だけでなくイマークなど機能性食品の市場も拡大していきたい。

ファインの止血が今すぐできるかという点については、後発品の拡大傾向をすぐに変えられるとは言えず厳しい面があり、繰り返しにはなるが機能性原料や機能性食品の拡大に努めていく。

Q. まぐろ養殖事業について、市場規模のイメージを教えていただきたい。

A. 生の本まぐろは国内全体で1万トン程度の供給があり、ニッスイは2千トン強扱っている。市場規模のイメージとしては、300億～350億円程度となると想定される。

Q. SAの在池魚評価について、期末の予算でどのように計画されているのか教えていただきたい。

A. 在池魚の評価益については、6月末では14億程度あるが、これは未実現の利益であり、12月末の評価は魚価の下落を想定して低く見ている。ロシアの禁輸の影響も一巡すること、南米の夏の魚病の発生をある程度想定している。

Q. チリトラウトの価格動向をロシアの禁輸措置との関係と併せて教えていただきたい。

A. 今年の6月から7月にかけて需給は緩み、価格が下落した。しかし、8月にロシア禁輸措置があり、ロシアがチリからサーモンを買うようになったこともあり、相場はやや回復した。ロシア向けのノルウェーのアトランティックサーモンが他に流れることで相場が崩れる可能性もあったが、ノルウェー政府も生簀の中に入れる数の規制を緩めたこともあり、大きな影響とはならず今もこの状況が続いている。

魚価の見通しについて、年内はこのまま行くのではないかとされているが、ロシア禁輸措置が今後いつまで継続されるのかも不透明であり、ロシアの動向を注視したい。

以上